

## ① 助産学専攻科 2025年度

### ② 入試区分

助産学専攻科（Ⅰ期）

### ③ 出題科目

母性・小児看護学

### ④ 出題の意図

本試験では、助産師としての基盤となる母性看護学および小児看護学の基礎的知識を問う問題とした。更に、事例を通して、妊娠期・分娩期・産褥期の各期のアセスメント能力を問い合わせ、各期における母子保健制度の理解を求める問題とした。

本学の出題の意図として、基本的知識の獲得状況と対象者の状況を的確に把握し、適切な判断を下すためのアセスメント能力を確認することを目的としている。

2025 年度 助産学専攻科 入学試験 I 期 問題  
母性・小児看護学

受験番号 \_\_\_\_\_

1. 性周期について、(①) から(⑧)の中にあてはまる語句または数字を記入しなさい。

月経周期のはじめに、下垂体から (①) が分泌され、その刺激によって卵巣で卵胞が発育を始める。卵胞の発育と共に卵の成熟も起きる。成熟しつつある卵胞からは (②) が分泌され次第に増加する。卵胞と卵の成熟状態が十分になると (②) の分泌がピークとなる。その翌日、下垂体では (③) の急上昇が起こる。これを (④) という。これがきっかけとなり卵巣では (⑤) ～ (⑥) 時間後に排卵がおこる。排卵後の卵胞は (⑦) を形成し、(⑧) を分泌する。排卵によって排出された卵子と、子宮内に侵入した精子が受精することによって妊娠が成立する。受精は (⑨) 部で行われる。

2. 分娩について、(①) から(⑭)の中にあてはまる語句を記入、または、どちらかを選択し○をつけなさい。

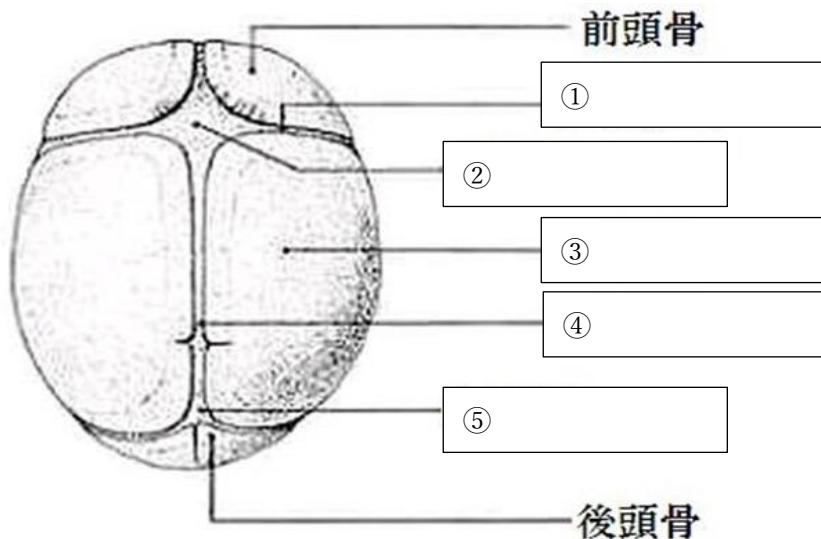
分娩の 3 要素とは (①) (②) (③) である。  
児頭は、分娩時に (④) という一定の変形をし、回旋運動をしながら通過しやすい体勢をとる。  
第 1 回旋は (⑤) 体勢 ・ 胎向 ) 回旋であり、(⑥) 横軸 ・ 縦軸 ) 回旋である。  
第 2 回旋は (⑦) 体勢 ・ 胎向 ) 回旋であり、(⑧) 横軸 ・ 縦軸 ) 回旋である。  
分娩予定日は妊娠 (⑨) 週 (⑩) 日を指す。  
分娩第一期とは分娩開始から (⑪) までの期間である。  
分娩第二期とは (⑫) から (⑬) までの期間である。  
分娩第三期とは (⑭) から (⑮) までの期間である。

初乳には、免疫グロブリン Ig ( ⑯ ) が多く含まれている。

児が乳頭を吸啜することによって、( ⑰ ) が分泌される。

※ホルモン名を記入

3. 新生児の頭部について、適切な名称を①～⑤に書きなさい。



4. 新生児期・乳児期における反射の種類を書きなさい。

また、出生時にみられる反射については、番号の後ろの( )に○をつけなさい。

- ①( ) 正常な新生児の手掌にものがふれると、強く握りしめてくるのは  
( ) 反射と呼ばれる。
- ②( ) 水平面に支えて、突然頭部を低くすると、腕が防御反応として伸びて支えようとするのは ( ) 反射と呼ばれる。
- ③( ) 仰臥位の乳児が自発的あるいは他動的に頭を一側に回したとき、顔を向けた側の上下肢が伸展、多側の上肢が屈曲するのは ( ) 反射と呼ばれる。

5. 次の A さんの事例<妊娠期><分娩期><産褥期><新生児期>を読み、

【問 1】～【問 4】に答えなさい。

<妊娠期>

A さんは 30 歳の初産婦である。自宅にて妊娠検査薬を使って検査したところ陽性反応があり、近所の産婦人科を受診した。妊娠 8 週 0 日であると診断された。月経周期は 28 日で規則的であった。夫と二人暮らしである。事務職であり、デスクワーク中心であるが、職場内での移動や立位での作業や接客を行っている。通勤には電車で 30 分程度要している。

身長 158 cm、体重 55.0 kg (非妊娠時) である。

【問 1】A さんは、「今は、まだつわりはそれほど強くありません。今後、食事はどのようにするべきですか。食べない方が良いものもありますか。体重はどれくらい増えても大丈夫ですか。」と質問があった。現在のエネルギー付加量や妊娠中の体重増加量、控えた方が良いと考えられる食品などの項目を含み、返答内容とその根拠を書きなさい。

<分娩期>

A さんは、妊娠 38 週 0 日午前 4 時頃から腹部の痛みを感じ始めた。その 1 時間後から 10 分毎の定期的な痛みが発来し、入院した。同日の午後 4 時に破水し、午後 5 時 15 分に子宮口が全開大した。午後 6 時 30 分に 3000 g の男児を娩出した。午後 6 時 45 分に胎盤娩出した。

胎盤娩出後の A さんの体温 37.1 度、脈拍 100 回／分、血圧 100／60 mmHg であった。分娩時出血は 800ml であった。

【問 2】分娩について、(①) から(④)の中にあてはまる語句を記入、または、どちらかを選択し○をつけなさい。

分娩所要時間は、(①) 時間 ) 分であった。

破水の時期は (②) ) 破水であった。

子宮口全開大から出生までの所要時間は (③) 正常である・正常を逸脱している )

出血量は (④) 正常である・正常を逸脱している ) と考える。

### ＜産褥期＞

産褥1日目、Aさんは、体温36.9度、血圧118／68mmHg、脈拍70回／分、呼吸数は50回／分であった。乳房の緊満感はない。子宮底は臍下1指であった。子宮は硬く触れ、血性悪露が中等量みられる。分娩後尿意が乏しい。「昨夜は後陣痛が痛くて疲れませんでした。おっぱいを飲ませたらさらに強くなつた。」と話す。

【問3】産褥1日目におけるアセスメントをしなさい。

### ＜新生児期＞

出生後3日目。Aさんの乳房は少し緊満感が出てきており、授乳は8～10回／日している。新生児のバイタルサインは、体温37.0度、呼吸数40回／分、心拍数130回／分、体重2880g、活気あり。顔面と胸部の皮膚に黄染が見られる。その他の部分は淡紅色である。尿は10回／日、便は2回／日であった。

【問4】Aさんは、「赤ちゃんの顔が少し黄色い感じがします。生まれたときより体重も減っているみたいです。大丈夫でしょうか」と心配している。Aさんに対する返答内容とその根拠を書きなさい。

6. 次の問い合わせに対して、(①) から(⑧)の中にあてはまる語句または数字を記入しなさい。

1. 妊娠中の保健指導または健康診査を受けるための時間の確保は(①) 法によって規定されており、女性労働者が妊産婦のための保健指導または健康診査を受診するために必要な時間を確保できるようにしなければならない。
2. 産前休暇は、(②) 法によって規定されており、妊娠中の女性が請求した場合は産前(③) 週間、多胎妊娠の場合は(④) 週間、女性を就業させることはできない。  
産後は、(⑤) 週間就業させることができないが、産後(⑥) 週間を経過後に、女性本人が請求し、医師が支障ないと認めた業務については就業させることができる。
3. 産科医療保障制度の補償対象基準は、2022年1月1日以降に出生した場合、在胎週数(⑦) 週以上であることである。
4. 令和5年4月1日以降の出産の場合、産科医療補償制度に加入の医療機関で妊娠22週以降に出産した場合、出産育児一時金は、1児につき(⑧) 円の給付がある。

以上

2025年度 助産学専攻科 入学試験Ⅰ期 解答

母性・小児看護学

1.

①	卵胞刺激ホルモン/FSH
②	エストロゲン
③	黄体化ホルモン/LH
④	LH サージ
⑤	24 ～36
⑥	黄体
⑦	プロゲステロン
⑧	卵管膨大

\*①③は略式名称でも可

2.

①	胎児
②	産道
③	娩出力
④	応形機能
⑤	体勢
⑥	横軸
⑦	胎向
⑧	縦軸
⑨	40 0
⑩	子宮口が全開大する
⑪	胎児娩出
⑫	胎盤娩出
⑬	A
⑭	オキシトシン

3.

①	冠状縫合
②	大泉門
③	頭頂骨
④	矢状縫合
⑤	小泉門

4.

①	○	手掌把握
②		パラシュート
③	○	緊張性頸

5.

【問1】	付加量は50キロカロリーである。 BMI 22.1であり、普通体重である。食生活指針によると、推奨増加体重10-13キロが目安である。 生ものは控える方が良い。 ウナギ（ビタミンA）や、魚類は食べ過ぎないようにする。魚介類の摂取と水銀に関する情報提供を行う。 たばこ（低出生体重児、流早産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）や飲酒（胎児性アルコール中毒、先天異常、関節の形成異常）、カフェイン（低出生体重児）も控える。 等、エネルギー付加量、体重管理、控えたほうが良い食品の内容が記載されていれば正解とした。文章力も採点対象とした。
------	--

【問2】	
①	13 45
②	適時
③	正常である
④	正常を逸脱している

【問 3】

バイタルサインは正常を逸脱していない、子宮の収縮も良好であり、産後の経過に応じた悪露が見られており、退行性変化は正常である。尿意が乏しいため、2~3時間毎に排尿を促し、排尿の度にパッドを交換するなどして清潔を保つことも重要である。乳房の緊満は、現在はみられないが、産後の経過を考慮すると特に問題はない。直接授乳を継続的に行い、プロラクチン濃度を保つ支援を行うことで、産後3日前後で緊満が出現することが予測される。進行性変化については経過観察とする。後陣痛に対しては、休息をすすめ、円座等を使用することや、痛みの程度によっては鎮痛剤の処方を考慮する。

等、産後1日目の退行性変化と進行性変化について記載されていれば正解とした。文章力も採点対象とした。

【問 4】

児の生理的体重減少率は4%であり、生理的範囲である。

児のバイタルサインは正常を逸脱しておらず、排便や排尿回数も正常範囲内である。授乳回数は8-10回/日であり、順調な経過であると考える。生後3日目であり、顔面と胸部に黄染が見られるがその他は淡紅色であり、生理的黄疸であると考えられる。このまま経過観察を行う。

等、生後3日目の経過について正しく記載されていれば正解とした。

文章力も採点対象とした。

6.

①	男女雇用機会均等
②	労働基準
③	6
④	14
⑤	8
⑥	6
⑦	28
⑧	50万